



関西大学学長

大西昭男

の内にいまると容易に想像できるものが一つある。志である。

今、諸君は、あるいはどっつき、あるいは

ご卒業おめでとう。

さて、この喜びの日に、諸君の心頭をどんな思いが去来しているのか、それはうかがい知るすべもない。ただ、すべての諸君の胸



62年度

卒業式を挙行

新学士四、八一三名巣立つ

昭和六十二年卒業式は、三、一三名の新学士が本学を巣立つ。月十九日（土）に挙行され、四、八つ。

第二世紀の夢を携えて

千里山学舎では、午前十時から第一部の文、経済、社会の各学部が、午後一時から同じく第一部の法、商、工の各学部が、ついで、天六学舎では、午後五時三十分から第二部の全学部が式を挙行する。

新しく学士の称号を認められる者は、法学部七十七名（第一部六八名、第二部一〇名）、文学部六十九名（第一部六二名、第二部七名）、経済学部七十三名（第一部六八名、第二部五名）、法学部七十六名（第一部六八名、第二部八名）、社会学部七十三名（第一部六八名、第二部五名）、工学部一〇六名、合計四、八一三名である。

また、大学院では、三月二十三日（水）に、博士課程前期課程及び修士課程終了者、博士課程後期課程単位修得者に対して、それぞれ修士の学位記、単位修得証書の授与式が行われる。修士の学位を授与される者は、法学部五名、文学部一八名、経済学部一名、社会学部一名、工学部一名、合計四名である。博士課程後期課程単位修得者は、法学部一名、文学部一名、経済学部一名、社会学部一名、工学部一名、合計四名である。昭和六十一年十一月、二万三、〇〇〇名の内外の参加者を得て盛大な記念式典が挙行されたが、この式典を経ていよいよ、われわれは第二世紀にむけての新たな飛躍が要求されているといえよう。

この四年間の世相を追ってみると、相当に大きな歴史的ともいえる出来事がみられる。何よりも、「ジャパン・アズ・ナイン」から「バックス・ニッポン」とまでいわれる日本の経済的超大国化と、他方「ジャパン・バッシング」激しい「円高」、そして不気味な暗黒の月曜日（昭和六十二年十月十九日、そして近代技術の限界をしのいだ「チャレンジャー」の空中爆発（昭和六十一年一月）と「チェルノブイリ原発事故」（同四月）のこと、さらには「ロッキード」関係としての「時代」とその終焉、「国鉄民営化」（昭和六十一年十一月）などのことが挙げられる。新文化人三人組の出現（昭和六十一年十一月）といったこともまた大きな歴史的出来事といえるかも知れない。

激動の続く世界へと巣立ちゆく諸君の大いなる健康を祈りたい。

四年間を振り返って

先日卒業生が訪ねてきて、色々話しているうちに、実は会社を代わるかどうか迷っているとの話になった。入社して約五年、最初は夢中だったが、最近余裕が出来てきて先が見えた。

このままでも大手メーカーだからとずっとやって行けるだろう。しかし一度しかない自分の人生はこれでいいのか。夢を持ちたい。もって成長したい。このこと。

彼の「心のあり方」には全く同感であり、私に出来る範囲で協力することにしたい。心のあり方には、自分と関わる人も大きく影響する。人との関係において、相手に対し不平不満を持ち、さらには相互に抜き差しならない状況に陥ったときどうするか。

ある人が教えてくれた。自分も相手も舞台の上で劇を演じている。その劇を見ている自分を想像する。観客になると、一生懸命に演じる必要はない。一生懸命に演じる必要はない。一生懸命に演じる必要はない。

初志忘るべからず

ささやかなそれぞれの志をいつの日からか、あたためて来ていることを、あたためて確認しておられることと思う。

その志が、これからは、きびしい風雪にさらされることになる。大きかったはずの志が、見るみるすんでゆく。ひと吹き風の風に吹き

してやうしてほしい。これから諸君の踏み出しゆく社会は、時には諸君を甘やかしてくれ、かもし知れない。しかし、まかり間違っても、諸君の胸の内の志を甘やかしてくれ、かもし知れない。親が子をいとおしむように、君ならずして誰が君の志をいとおしんでくれるだろうか。

も知れない。割り切った上で、しよせん夢は夢だったのだと、わが志に早や見切りをつけている人がいるかも知れない。

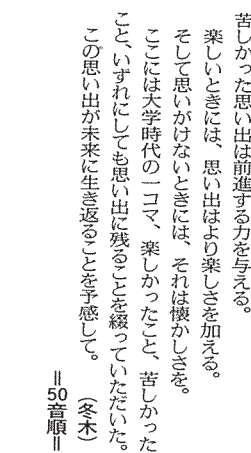
ここで私のほんのむねの言葉を諸君に差し上げたい。君の胸の内の志を見失うことなかれ、見放すことなかれ、と。君が君の志を見放し

やがては、そのまわり道がまわり道でなくなると。

君は君の知略の限りを尽くして、君の仕事に打ち込み、且つは君の志を貫くことだ。且つというは併行にということではない。ましてや逆行にということではない。どんな不本意な職場のどんな不本意な仕事にても、全身全霊をこめてぶつかって行く時には、おのずから道は開ける。そして、それが、そのまま君の志の達成にもつながって行くことになる。近代ドイツの思想家「ニーチェ」に「運命愛（アモール・ファティ）」ということがある。運命をただ受け身で甘受するのではなく、進んで迎えて、わが志を貫くこと。それが、とりも直さず、わが志を貫くことにもなる。そして何よりも堅忍不拔の意志を以てわが志を貫く。諸君それぞれの志が何であれ、その志を見失わず、その志を貫くことを諸君の一人ひとりに望みたい。

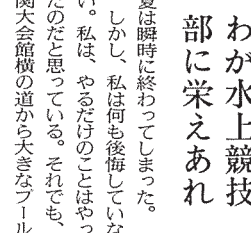
この四年間の世相を追ってみると、相当に大きな歴史的ともいえる出来事がみられる。何よりも、「ジャパン・アズ・ナイン」から「バックス・ニッポン」とまでいわれる日本の経済的超大国化と、他方「ジャパン・バッシング」激しい「円高」、そして不気味な暗黒の月曜日（昭和六十二年十月十九日、そして近代技術の限界をしのいだ「チャレンジャー」の空中爆発（昭和六十一年一月）と「チェルノブイリ原発事故」（同四月）のこと、さらには「ロッキード」関係としての「時代」とその終焉、「国鉄民営化」（昭和六十一年十一月）などのことが挙げられる。新文化人三人組の出現（昭和六十一年十一月）といったこともまた大きな歴史的出来事といえるかも知れない。

激動の続く世界へと巣立ちゆく諸君の大いなる健康を祈りたい。



とりからクラフに對する心構え、
禮儀作法、言葉使いや人を思いや
る優しさ等、数多くのことを学ん
だ。

練習の時は互いに声を掛け合い
試合に出場する者がいれば、みん
なで応援し、健闘を称える様は、
私なりに美しいと感じていた。そ



して、私もその中の一人であることに誇りを持ち、私自身クラブを十分に楽しんでいた。そのおかげで私の四年間は、本当に早いものになつてしまい、特に四年次生の出の水戸競技部に栄えあれ

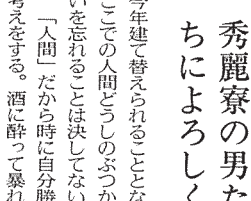
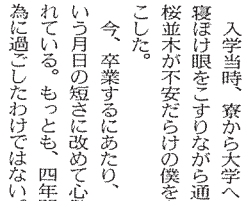
(五)



を見下ろすと、自分はそこを忘れていたのではないかとされることもある。

まあ、何はともあれ、わたしの水上競技部に栄えあれ

(二)



が僕の糧であつたと、照れながらはあるが、言えるだけのことを日々であつた。悲喜こもも演じられた秀麗寮というおん景は、国際交流の大役を担つ

在学生活振り返って

くなくて、学問をする留学生なら
ではの特権を満喫できたことを素
直に喜んでいる。

関西大学には国際交流課が設け
られており、毎年新入学した留学
生は、全学部レベルの歓迎会や学
部懇談会などを通じて、多くの先

関西大学で留学生として過ごした四年間は、学生生活の楽しさと社会人としての困難な経験の双方が入りまじったものであった。慣れない風習に惑わされ、知らなかった社会に徐々に順応していき

関西大学で留学生として過ごした四年間は、学生生活の楽しさと社会人としての困難な経験の双方が入りまじったものであった。慣れない風習に惑わされ、知らなかった社会に徐々に順応してい

して国際交流

し方を、懇切に指導していただ
ている。私は調子に乗っていつ
かお酒を呑み過ぎて、先生方と
の話を溶け込んでしまったのだ。
先生方も、弾む話にお酒を結
ぶ酒を飲みかた

し方を、懇切に指導していただ
ている。私は調子に乗っていつ
かお酒を呑み過ぎて、先生方と
の話を溶け込んでしまったのだ。
先生方も、弾む話にお酒を結
ぶ酒を飲みかた

曲國華

とだろう。それを乗り越え
関西大学の先生方を思
つう。

とだろう。それを乗り越え
関西大学の先生方を思
つう。

そのうち六年中国語。私の大活は、愉快地楽しく文字通りしていた。ただし、途中の二回は復旦大学の留学生であり、生部の先生方と寝食をともに同室者の中国人学生から、中



長谷川 朋行



長谷川 朋行

この友と
上演された。イタリ
ナタ、日本、西ド
が参加した。その
レビによって、ニ
ようて、ニュー

あった。
年五月十八日十九時、
輝堂で第一回復旦大学
幕式の後、続いて京劇
した『櫃中縁（衣装箱
をやつ
上海で

あった。
年五月十八日十九時、
輝堂で第一回復旦大学
幕式の後、続いて京劇
した『櫃中縁（衣装箱
をやつ
上海で

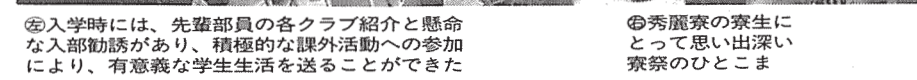
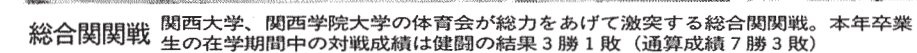
加は特に印象深
く、世界各国の同
友達になれたの
由になっている

本人学生とは私
て芝居が大好き
い。たしかに、
中国語劇『雷雨』
大会にも出た。
弁論大会では第

本人学生とは私
て芝居が大好き
い。たしかに、
中国語劇「雷雨」
大会にも出た。
弁論大会では第

A black and white photograph showing a bridge structure with a large, stylized 'R' logo on its side. The bridge appears to be a truss bridge, and the 'R' is prominently displayed on the upper part of the structure. The background is dark and indistinct.

A black and white photograph showing a bridge structure with a large, stylized 'R' logo on its side. The bridge appears to be a truss bridge, and the 'R' is prominently displayed on the upper part of the structure. The background is dark and indistinct.





金に頼るにせよ、物に頼るにせよ。金に頼るのほうはいい。しかし返さなければいけません。お金の貸し借りは決して貸すものではない。金銭のひんきな人はべの点特銘路すべきです。そんなたい延局自分の大事なお金を友人とを一緒に使うことがあがる。

他人の多額の債務の保証についてもうた。それは自分が借金するのと同じところからである。

普通に働き、つましい生活をなすれそれなりに幸せに暮らしているが今世の中で、生活破綻する大原因は易易なお金の質し借りにある。

後開先に立す。くれぐれ注意された。

(経済学部教授)

[illegible]

相对化



(冬木・真鍋)